



年頭のご挨拶

令和4年1月1日
調布市剣道連盟
会長 宮田 考志

明けましておめでとうございます。調布市剣道連盟会長宮田です。

今年も昨年に引き続き、元朝稽古は中止とさせていただきました。楽しみにされていた会員各位には、大変申し訳ありませんでした。

昨年も、一昨年同様に、コロナ禍の1年でした。稽古始めの直後に、緊急事態宣言が発令され、稽古休止となりました。その後も、稽古再開、休止を繰り返しましたが、1級審査、少年部合同強化稽古に加え、小中学生に限定しましたが、調布市剣道大会を開催できたのは大きな前進だったかと思います。全剣連の「対面稽古再開にあたっての指針」変更に合わせて、昨年後半からは、with コロナに方針を切り替え、会場が使用可能な限りは、一定の感染対策の基で稽古を継続することとし、年末まで大過なく稽古を継続することができました。これも、会員皆様一人一人が、ガイドラインを遵守し、感染予防に留意した行動をとって頂いたお陰と、心から感謝申し上げる次第です。そんな中で、秋の西東京剣道大会では、2連覇中であつた小学生チームが、残念ながら優勝チームに僅差で敗れたものの、3位に入賞と素晴らしい結果を収めました。また、昇段審査でも多くの朗報が聞かれましたが、特筆すべきは、深大寺剣道会の三浦悠紀子さんが六段に合格されたことが挙げられます。剣窓や全剣連HPで公開されていますので、あえて年

齢を記しますと 84 歳という事で最高齢の合格でした。いくつになっても目標に向かい努力する姿に頭が下がると共に、我々も見習いたいものと思いました。さらに、今年の大きな話題としては、鱚澤先生の、全剣連の「剣道有功賞」受賞が挙げられます。この賞は、剣道の発展、普及に尽力された功績に対し贈られる賞で、全国でも限られた人のみが受賞されます。鱚澤先生のこれまでのご活躍に敬意を表すると共に、調布剣連に対する多大なご尽力に対し心から感謝を申し上げます。

さて、今年は寅年です。一般的に、「干支」というと「十二支（じゅうにし）」を思い浮かべるかと思いますが、正しくは、10 日を 1 旬として繰り返される日にそれぞれ名前を付けた「十干（じっかん）」（蛇足ついでに書きますと、子供に人気の「鬼滅の刃」の鬼殺隊の隊士の階級には、この十干が使われています）と、木星が 12 年で天球を一周することから、天空の方角を 12 に分け、それぞれの方角の記号として動物の名前を付けた「十二支（じゅうにし）」の組み合わせで、甲子（きのえね）から始まり、60 種類（10 と 12 の最小公倍数）の組み合わせができ、同じ干支は 60 年に 1 回しか巡ってこない（だから、60 歳を還暦という）ものです。それでいうと、今年は「壬寅（みづのえとら）」となります。「壬」は、お腹に子供を宿す「妊」の一部であることから「はらむ」「生まれる」という意味があります。「寅」はもともと「演」が由来といわれ「人の前に立つ」、演と同じ読みの「延（えん）」から「延ばす・成長する」という意味もあるそうです。この 2 つの組み合わせである壬寅には、「新しく立ち上がること」や「生まれたものが成長すること」といった縁起のよさを表しているそうです。調布剣連も、干支にちなみ「コロナ過から立ち上がり」、「新体制で成長していける」1 年になればと願っております。ただ、懸念としては、オミクロン株の影響もあり、昨年後半の落ち着いた感染状況から、じわじわですが感染拡大の兆候が表れている点です。皆様には、年始の休暇中も感染防止に努めて頂き、稽古再開後の剣連関連組織でクラスターなど発生することが無いようご留意願します。

末筆ではございますが、会員の皆様とご家族の、今年 1 年のご健勝とご多幸を祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

本年もよろしくお願い致します。